

中村健教授退任によせて

中村健先生との出会い

——西宮教育との関わり——

吉 田 将 司

目次：

1. はじめに
2. 西宮教育と教員養成
3. 中村健先生との出会い
4. 「他人や過去は変えられないが、自分や未来は変えられます」
5. 「傍流を生きる」
6. おわりに

1. はじめに

中村健先生の定年退職にあたり、西宮市教育委員会より心からお慶び申し上げます。中村健先生には西宮市の教員養成カリキュラムにあって欠くことのできない指導を長年にわたりお願いしてきました。これまでに受講した教員は1000人に近づき、先生の思いや言葉が多くの教員の心に残っています。私もその中の一人であり、敬愛する先生の定年退職にあたり発行される記念誌の末席に加えていただけることはこの上ない喜びです。この機会に私の心に残った先生の言葉やご指導を西宮教育との関わりについて記しておくことで、少しでも多くの皆様に先生の言葉や思いに触れていただければ嬉しく思います。

2. 西宮教育と教員養成

西宮市は兵庫県の南東部に位置し、甲子園や古くからの酒造りで有名な市です。人口は県内第3位であり阪神間の都市として商業や観光など、近年も発展を続けています。市内には6つの大学、4つの短期大学があり市民の文化的行事や教育への関心も高く、自然も豊かな文教住宅都市として知られています。

本市では「夢はぐくむ教育のまち西宮」を目標に、教育の振興に取り組んでいます。この目標は阪神淡路大震災後の平成7年に定められ、夢を失わない限り、道は必ず開かれるという考え方のもとに、子供たちは、震災を心の憂いとせず、困難をバネとして育ってほしいという願いが込

められたものです。今日では、文教住宅都市西宮における、生涯学習のまちづくりをイメージした基本目標と位置付けられています。

また、これを受けて、教職員の人材育成基本方針も定められており、目指す教員像として以下の5つを挙げています。

- ◇ 常に向上心を持ち、不断の研究・修養に努め、自己を高める教職員
（普遍性のある教職員像として）
- ◇ 西宮市の教職員として、温かさと厳しさをもち、子供とともにある教職員
（西宮市の教職員として）
- ◇ 校長の意を体して、一人ひとりの子供の心に真摯に向き合い、確かな力をつける教職員
（各校園の教職員として）
- ◇ 同僚性を高め、磨き合い、支え合い、課題を共有する教職員
（自己実現の確立とともに、共有すべき価値を確認し行動する教職員として）
- ◇ 郷土に学び、保護者・地域とともに、教育力を高める教職員
（地域に学び、協働し、三者の教育力を高め合う教職員として）

これらを目標として、専門職としての高度な知識・技能を身につけ、教職に対する責任感・探究心を持ち、総合的な人間力を高められるような研修カリキュラムを作成して教員育成に当たっています。

中村健先生には、児童・生徒・先生の間関係づくり、カウンセリングの手法を活かした学級経営、1人1人の子供を大切にしたい関わり方など、教員の心や人権意識など教育の根幹をなす講話を10年以上お引き受けいただきしてきました。初任者研修や2年次教員研修など。特に若手教員への研修をお願いすることが多く、受講者の心に残る研修となっています。

3. 中村健先生との出会い

私と中村健先生が初めて出会ったのは今からちょうど10年前の平成24年6月のことです。私は34歳で転職組として教員採用試験に合格したばかりで初任者研修を受講していました。西宮市は平成20年に中核市に移行し、初任者研修も市で実施する体制に変えた直後でした。そのこともあってか初任者研修にも非常に充実されており、様々な大学の先生が講話にお越し下さったり、市の指導主事がお自身の経験を元に実践的な研修をして下さったり、地域の方々の力をお借りして西宮市内でワークショップを行ったり非常に内容の濃い研修が行われていました。

そのような研修の中でも特に印象に残ったのが、「カウンセリングマインドに基づいた人間関係づくり」に関する研修でした。研修の担当者から「この研修が終わる頃には皆さん全員が笑顔になっていますよ、楽しんで参加して下さい」とお話があり紹介された講師の先生が中村健先生でした。

先生のお話はまず先生が学校現場でご活躍されていたころの経験談から始まりました。初めて

赴任された中学校での生徒との思い出深い関わり、教育委員会に異動されて指導主事になられてから出会った子供や保護者との関わり、どれも本当に当時の私には想像が付きかねる経験でこんなにすごい経験をされた先生がいるのかと感心すると共に、今後自分が同じようなことができるかと考えた時に少し不安な気持ちになりつつも、先生の明るく飄々とした雰囲気が続けられる熱のこもった講話にいつしか引き込まれていったことを覚えています。

講話だけでなく構成的グループエンカウンターを取り入れたワークショップに多くの時間をとっていることも特徴的でした。当時の私は構成的グループエンカウンターという言葉をもその時まで知らず、ワークショップが始まったばかりの段階では、クラスでのレクリエーションと同じような印象を受けていました。ワークの内容としては、参加者みんなが黙って一言も話さずに誕生日順に輪を作る「バースデーチェーン」、決められた人数でグループを作るワーク、フルーツバスケットのような椅子取りゲームの要素を取り入れたワーク等々、レクリエーションとしてとても楽しいものばかりで子供たちと一緒にしてあげたら喜ぶだろうなあというのが第一印象でした。

ところが研修が進むにつれ構成的グループエンカウンターが確かに参加者の心を開かせて人間関係が深まっていくことに気がつかされていったのです。先生をリーダーとして行われたワークは、ワークの説明をした後にワークを行って、最後にワークの中で起きた出来事やその時に考えたこと、思ったことをシェアリングする形になっていました。

その中で参加者は先生に促されて様々なことを話していきます。例えば、黙って身振り手振りで誕生日を伝えたことをなんとか汲み取ろうとしてくれたことや、3人グループまで作った後5人グループになるときにさっと1人離れて新しいグループに行った行動力のあるメンバーの話、反対に2人をいち早く呼び込んだリーダーシップあるメンバーの話、グループからあふれてしまったが先生に新しい役割をもらってなんだかほっとしたという話など、共通体験を通して参加者の思いや感情が本音と共に語られました。確かに相互理解と自身の成長も感じることができると素晴らしい活動だと感じさせられたと共に、シェアリングすることそのものの大切さにも気づかされました。

また、当時の研修で私が学んだことの一つが先生のリーダーとしてのふるまいです。ワークショップを教室に置き換えると中村先生が担任、参加者の我々が生徒という役割になります。先生が学級担任はリーダーとしてこうあるべきという姿を見せてくださったように感じました。まず説明が丁寧であり指示は1つずつ与えられていました。説明がよく理解できておらず違う動きをした参加者がいたとしても否定したり咎めたりせず、様子をよく聞き取っていきます。ワークの最中は全体の様子に目を配り、場所を譲った参加者や、他のメンバーを助けた参加者、他のメンバーと少し違う考え方で動いた参加者などに気付き、シェアリングの段階で声をかけて全体に共有します。途中でグループから外れてしまって戸惑っている参加者がいたら声をかけて新しい役割を与えて安心させていました。そのような姿から、集団から信頼されるリーダー、安心感のある集団づくりとはこのようにして作っていくのだと体験を通して、学ぶことができたのでした。

当時の研修で中村先生から研修を受けることができたのはこの1回だけでしたが、私の心に中村健先生が深く刻まれる研修となり、その後もカウンセリングマインドや構成的グループエンカウンター、人間関係づくりなどを自主的に学ぶきっかけともなりました。

4. 「他人や過去は変えられないが、自分や未来は変えられます」

それから6年間、子供たちや保護者・地域の方々・同僚・上司に恵まれて初任校で素晴らしい経験を重ねることができました。平成30年に初めての異動で着任したのが現在の教育研修課で、初めに主な業務として担当することになったのが初任者研修でした。前年度の担当者から引き継がれた研修計画をみるとその中に中村健先生の名前があり、また以前のような研修やお話を聞くことができる嬉しき気持ちになるとともに、当時の私のように素晴らしい研修を初任者に用意しなければと身の引き締まる思いがしたことを思い出します。

当時先生は社会貢献活動などで西宮市によくご訪問されており、研修前に何度かお会いして打合せなどの機会を得て、お話をする中で気さくであたたかい人柄に触れることができました。社会貢献活動をされている会にお招きいただき、学校でのプログラミング活動についてお話をした際には先生のまた違った一面を拝見することができ、そのような機会をいただく毎に少しずつ先生との距離が近づいていくような気持ちになっていました。

現在でも当市の初任者研修では構成的グループエンカウンターを取り入れた研修をお願いしています。数年ぶりにあらためて聞いた先生の研修で講話の中にあっただのが「他人や過去は変えられないが、自分や未来は変えられます」という言葉です。自分が受講していた時にも先生はこの言葉を伝えて下さっていたのでしょうか、もしかすると当時の私の心には刺さらなかったのでしょうか。この時はずっと心に入ってきてこの時から自然と残るようになりました。

この言葉は、相談者の言葉だけでなく、相談している事柄に関する相談者の気持ちや先生に相談をしている際の気持ちも含めて、徹底して傾聴するという姿勢でカウンセリング関わってこられた先生の経験をもとに語られました。学校や自分に対して難しい苦情に近いような相談をしていく相談者に対して、まず面倒な相談者という偏見を外して徹底した傾聴から自分を変えていこう、どこか相談者の気持ちや内容に共感できる場所はないか探そう、そこからまず自分が変わったことで相談者が変わっていったことが何度もあったといいます。

学校でも日々いろいろな困難に直面しています。授業が進まない、子供たちと良い関係が作れない、ある子供の行動が気になるなど、悩みの種は無数にあります。つい指導者としての立場からまず子供たちに働きかけをしてしまいがちですが、先生はそこを「ちょっと待って」とアドバイスします。まずよく話をしてみましょう、傾聴してみましょう、そこから自分を何か変えることができたなら、背中を押すことができるかもしれません、何か新しい手立てができるかもしれません。そういうときに他人を変えることができるかもしれません、教育というのはそういう愛情をもってあたたかく育む行為なのだと教えてください。この言葉を先生のお話をこれからも本市の先生方に聞いてもらいたいと思っています。

5. 「傍流を生きる」

中村先生とはプライベートな席にも何度かご一緒させていただいています。そのような席では本当にざっくばらんにいろいろなお話をお聞きました。時にはそのお話は聞いてしまってよかったのでしょうかと私がちょっと慌てるようなお話を伺ったこともあります。先生がご自身のことを語って下さるので、ついついこちらも自身の悩みやこれまでの経験から普段話さないような事を話してしまうのです。ここ数年コロナ禍でこのような席でご一緒できないことが非常に残念ですが、裏表のない気さくな先生との会はずいぶん和やかで時間が過ぎるのが本当に早く感じます。

そのような中で先生に勇気づけられたことがあります。その時の会はずいぶん年度末となり、人事異動の時期を迎えていました。同席した指導主事は他の教育センターに異動が決まっており、カウンセリングなど中村先生の専門分野に近い領域を担当することになっていたため会話が弾みました。私は指導主事として1年を終えようとしていた頃でしたが、指導主事という仕事をしていく中で不安に感じる事が多い時期でした。学生のころから教員志望でもなく転職で教員になったことや、そもそも短大、大学は通信課程であったこと、教員免許ももちろん通信課程で取得しました。そんな人間が6年程度学校で教員経験を積んだだけで指導主事をやっているのでもいろいろ力不足を感じる事が多いのですといったことを話したように思います。

その時に中村先生がお話された言葉が「傍流を生きる」という言葉でした。「吉田先生、私たちは傍流から見ると、主流にいる人たちに見えていないこと、気がついていないことをしているんですよ。主流にいるといろいろ窮屈でしたくてもできないことがあるし、言ってみれば望んで傍流を生きているんですよね」あらためて自身の使命をどのように捉えてどう生きていくか、この後もひとしきりこの語り合ったことを思い出します。私はこの言葉を後押しに、得意分野と自分の感覚を軸に指導主事をここまで5年続けることができました。この言葉は私にとっては金言であったのだなあと感じています。

6. おわりに

ここまで中村健先生との出会いと西宮教育との関わりについて振り返ってきましたが、あらためて、先生の教育に対する情熱と愛情、人柄が生み出すあたたかさ。そういった周りの人を幸せにするものを、私を含めた西宮の先生方に与えて下さったのだなあとしみじみ思っています。令和5年3月31日に定年退職を迎えられますが、これまでと変わらぬ西宮教育へのご指導と、私への変わらぬお付き合いのほどをお願いいたしまして結びとさせていただきます。中村健先生、定年退職おめでとうございます。